

小石川高校ラグビー部

後援会会報 Vol.2

発行責任者 後援会理事長 斎藤守弘 平成 15 年 5 月発行
公式ホームページ <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/8115/>

目次

小石川高校ラグビー部より

- ・平成 14 年度新人戦結果・観戦記
「成長力を感じた 3 試合」
池田史郎 (昭和 32 年卒)…………… 1
- ・平成 15 年度春季大会結果・観戦記
斎藤十五 (平成 15 年卒)…………… 3
- ・現役部員の状況…………… 4
- ・卒業生の進路…………… 4

高梨昭先生異動のお知らせ

- ・「前へ、前へ……」
高梨昭 (前顧問・科学技術高校教諭)…………… 4
- ・挨拶
藪上和夫 (顧問・英語科教諭)…………… 5
山田憲永 (顧問・体育科教諭)…………… 6
- ・「切磋琢磨の精神」
及川順二 (平成 11 年卒)…………… 6
- ・「あの一言で……」
小川晃央 (平成 12 年卒)…………… 6
- ・「真っ直ぐ縦に、前に出るのだ」
島崎将成 (平成 13 年卒)…………… 7
- ・「直情的でストレートな先生」
野渡寛介 (平成 14 年卒)…………… 7

- ・「人生の大切な 1 ページ」
南公一郎 (平成 15 年卒)…………… 7
- ・「高梨先生、ありがとうございました。」
斎藤守弘 (後援会理事長)…………… 8

藤田幸康先生退官のお知らせ

- ・「藤田先生の退官記念パーティのご報告」
平耕一 (昭和 52 年卒)…………… 8
- ・「定年退職、そして再び……」
藤田幸康 (元顧問)…………… 9
- ・「藤田先生の思い出」
横瀬隆徳 (昭和 52 年卒)…………… 10

理事会からのお知らせ

- ・大泉高校との定期戦のお知らせ…………… 11
- ・総会のお知らせ…………… 11
- ・平成 14 年度寄付者ご芳名…………… 12
- ・平成 14 年度会費納入率 (卒業年別)…………… 13
- ・平成 15 年度会費納入のお願い…………… 13
- ・公式ホームページ紹介…………… 13
- ・後援会メーリングリスト参加のお願い…………… 14
- ・住所不明者…………… 14
- ・編集後記…………… 15

小石川高校ラグビー部より

平成 14 年度新人戦結果・観戦記
「成長力を感じた 3 試合」
(於：江東区・東京都立東高校)
池田史郎 (昭和 32 年卒)

1/12 対石神井高校
5 - 0 (前半 0 - 0、後半 5 - 0)
1/19 対東京農大一高校
5 - 38 (前半 0 - 19、後半 5 - 19)

1/26 対富士高校
5 - 7 (前半 5 - 7、後半 0 - 0)

惜しくも 1 勝 2 敗と負け越したが、勝つ力を持ったチームであることを見せられた戦い振りであった。

< 第 1 戦 対石神井高校 >

出場メンバーは、学年別に 2 年生 5 人、1 年生が 10 人で、バックスは全員が 1 年生とか。新人戦で、まだ試合に慣れていない選手が多いのか、少しぎこちない感じが見受けられたが、ボールは殆ど小石川が支配した。しかし前半は得点できず 0 対 0。後半 8 分に、左中間ゴール前から抜けてトライ。その後は攻められて、時々ハラハラする場面もあったが、よく守り抜いて 5 対 0 で勝利を収めた。スクラムの組み方と、バックスへの球出しを早くすることに少し工夫をすればもっと得点出来たのではないかと思われたが、貴重な勝利であった。

< 第 2 戦 対東京農大一高校 >

前週に較べてスクラムが安定し、FW がしばしば押し込んで、ハーフの球出しも早くなり進化が見られた。しかし農大高に前・後半夫々、3 トライ 2 ゴールを奪われ、小石川は後半終了間際に FW が攻め立てて左中間に押さえた 1 トライだけで、計 5 対 38。得点差は開いたものの、内容的には僅かな差で、FW の迫力ある突進など、我が小石川のプレーにも、光るものが見られた。また頼もしいことに、点差が開いても最後まで戦意の衰えが見られず、終了間際のトライがそれを証明した。

アタックで、バックスがもう少し前に出ることができたら、FW がもっと有効に働けて、攻撃に弾みがつくのにという印象を受けた。勝利を期待して集まった観戦の OB 連も「惜しい」を連発していた。



< 第 3 戦 対富士高校 >

怪我が治りこの試合から復帰出場の 2 年生の SH、同じく怪我で前 2 試合は普段の動きが出来なかったが漸く快癒した SO のハーフ団が、立ち上がりから前 2 試合とは違う良い動きを見せ、期待が膨らんだ。

前半 16 分敵陣 25m、右中間のモールから FW が持ち込んでトライし、5 対 0 で先行。

しかし、前半終了間際に犯したペナルティから、タッチキックでゴール前の敵ボールのラインアウトになり、フェイントに釣られ後ろへ下がったところへ、前に入った富士のフランカーに投球され、飛び込まれてトライ。ゴールも決められ 5 対 7 と逆転。



後半は激しい攻防が続いたが、双方とも得点なく、2点差で惜敗。しかし、FW・BKともに良い動きで、とても内容のある良い試合でした。現役のチームのメンバーにとっては悔しい気持ちで一杯でしょう。しかし、今後こういう試合に勝つには「何を、どうするか」を具体的に考えて練習を重ねればよいのであって、その意味では、得難い貴重な体験をしたものと思われま

す。観戦のOBが試合毎に多くなってきました。現役の試合を観たあと、OB同士で食事をする楽しみもあります。皆さん、試合の観戦に是非お出掛け下さることをお奨めします。



平成 15 年度春季大会結果・観戦記
齋藤十五 (平成 15 年卒)
(於：日大二高校立川グラウンド)

4/13 対成城学園高校
 0 - 43 (前半 0 - 7、後半 0 - 36)

春季大会の1回戦、日大二高グラウンドにおいて、成城学園高校との対戦が行われた。この日は4月にしては暑いくらいの陽気でグラウンドコンディションも良好であった。

相手ボールでキックオフ。開始してからの時間帯は相手ペースでの時間帯で、大きくバックスに展開しての攻撃が目立っていた。小石川は何とか凌いでいたが、相手のFBがラインに入ってくる

オプションプレーにより、完全にディフェンスが攪乱されてしまいトライを奪われてしまう。このときに限ったことではなく、相手BKのサインプレーにより、こちらのディフェンスがどの選手をマークしていいのかわからなくなってしまうという場面が多く見られた。組織的なディフェンスがこれからの課題の一つだと思う。

この後はディフェンスの好タックルも多々あり、速い出足によって相手のミスを誘うことも出来、小石川がペースを握った。相手陣に入っ



後半もこのままのペースを保ちたかったが、前半と同じような展開になってしまい、開始早々にトライを奪われてしまう。しかし、その後は一進一退の展開が続く。インサイドのディフェンスではかなり気迫の入ったタックルも見られ、またオフenseでは大きくゲインする場面もあったが、次のプレーヤーのサポートが遅く、次の展開につなぐことがうまく出来なかった。相手プレーヤーではFBやWTBが目立った走りをしており、相手陣から大きくゲインされ、繋がれトライを奪われてしまう。その後は気落ちしてしまったのか、立て続けにトライを奪われ、そのままノーサイド。結果0 - 43の完封負けを喫した。

大敗してしまっただが、好プレーは随所に見られ、決して一方的という感じではなかった。しかし、スキルレベルはまだまだであるし、いかにしてトライをとるかということに関しても経験不足であると思う。三年生も秋の大会まで全員残るそうなので、二年生、新一年生と伴に新しい顧問の藪上先生、山田先生の下で練習を積み、まずは大泉高校との定期戦の勝利に向けて頑張りたい。



現役部員の状況

33 人と近年にない多くの部員で活動を行っています。

	ラグーマン	マネージャー
1 年生	10 人	2 人
2 年生	12 人	1 人
3 年生	6 人	2 人
総勢	28 人	5 人

卒業生の進路

平成 13 年卒

山本 太郎 京都大学 総合人間学部

平成 14 年卒

野渡 寛介 明治大学 経営学部

香野 利夫 武蔵工業大学 環境情報学部

旭 真一郎 北里大学 理学部

平成 15 年卒

斎藤 十五 東京都立大学 文学部

志村 匡仁 明治大学 政治経済学部

小寺 貴之 東京工業大学 第7類

吉川 麻友菜 青山学院女子短期大学

高梨昭先生異動のお知らせ

平成 6 年 4 月より 9 年間、ラグビー部の顧問を務められた高梨昭先生（体育科）が平成 15 年 3 月、都立科学技術高校に異動されました。高梨先生にはこの 9 年間で振り返っていただくと共に、高梨先生のもとでラグビー生活を送った OB にそれぞれの思い出をつづっていただきました。



(奥側、帽子をかぶった男性が高梨先生)

「前へ、前へ・・・」

高梨昭（前顧問・都立科学技術高校教諭）

小石川高校ラグビー部 9 年の歴史をありがとう。55 年の歴史を誇るラグビー部を指導でき、私の教師生活の 1 ページとして刻み込まれ、永遠に忘れることなく私の人生に残るであろう。

様々なこの 9 年、「勝ちたい」という気持ちが強く、勝負にこだわるという私の指導方針を理解してもらえずに監督と生徒との摩擦が生じたため、指導における挫折感を感じ何度か部を退きたいという葛藤に陥り、悩み、苦しんだ時代もあった。

た。しかし、生徒達のラグビーに対する熱意に負け、共に前進し指導することが出来た。

私の思い出のなかで、前回の会誌でも述べたが、平成 11 年春季大会においてベスト 8 まで進出しながら、関東大会出場を一步手前で逃してしまったことが一番悔いの残ることである。しかし、様々な十年の歴史の中での教え子達が、OB として小石川高校に戻りコーチをしてくれ、私の考え方が浸透し、同じポリシーを持ち選手と接している姿を見ると、私の指導が間違っていなかったと確信できた事が嬉しい。

年々少子化のためにラグビー人口が減り、小石川ラグビー部にもその影響がおよび、部員数も 20 名を切り、活動が難しくなってきた。しかし伝統校小石川高校ラグビー部は永遠にこれからも存続し、活躍をしていこう。小石川の部員は、一人ひとりがチームの中心であり一人ひとりがリーダーであるという意識を持ち続けて欲しい。そして、そんな中で一体となったチームとして、これからも戦うことを望んでやみません。去っていく高梨は、小石川高校ラグビー部をいつまでも愛し、小石川ラグビー部への思いを心に秘め、新しい職場へと旅立ちます…さようなら。

顧問挨拶

藪上和夫 (英語科教諭)

今回、初めてこの会報で、顧問として原稿を書かせていただきます。まず少し自分と小石川高校ラグビー部について触れたいと思います。小石川では 3 年ほど副顧問としてラグビー部とは関わってきたので、何人かの OB の方にはすでにお世話になっているのですが、実は 10 年ぐらい前に卒業された OB の方ともつながりがあるのです。というのも私は前任校の光丘で 10 年間ラグビー部を指導してきましたが、当時小石川とは 1 年に 1 ~ 2 回ぐらいは必ず練習試合をしていました。その頃小石川が、校舎改築でグラウンドが使えないということで、当時のキャプテンに「よかったら光

丘に来て一緒に練習やらないか」と話しかけたことから、何度か合同で練習をさせてもらったこともありました。(その頃から小石川高校ラグビー部を身近に感じていたものです。また、新設校だった光丘でラグビー部を作られた藤田先生の前任校が小石川だったこともあり、昔から光丘と小石川は交流があったようです。)

ともかく、小石川に来るときは兄弟の学校に来るような感覚がありました。そして高校のラグビー部の数が減っていく中、小石川高校ラグビー部顧問としてラグビーに関わっていただけることをとても嬉しく思います。生徒達は自主的に練習に取り組んでおり、まだ高校生のクラブとしてあるべき姿が残っていることも嬉しいことです。私自身もラグビー経験はありますが、ラグビーもどんどん変化していくので勉強し直して、少しでもいいものを生徒に伝えていきたいと考えています。生徒には、あくまでも高校生らしい感動的なラグビーを求めたいと思います。その上でよい成績が残せたら素晴らしいと思います。(高校ラグビーのチーム数減は寂しいことではありますが、その分上位進出のチャンスは大きくなりました。)

今回この原稿依頼が春休みにあり、高梨先生が異動されたので私がこの原稿を書いています。体育科に山田先生という、まだクラブチームでラグビーを続けている若い先生が着任されました。本当に素晴らしい先生で、ラグビーに対してとても研究熱心ですし、着任早々生徒に対しても熱心に指導していただいています。従って今後はメインの指導は山田先生にやっていただくことになります。ぜひよろしくお願いします。私としてはつなぎ役だと思っておりますが、小石川高校ラグビー部がさらに強くなるよう、小石川にいられる限り顧問として見守ってゆきたいと思っております。OB の方も現役ラグビー部の応援をどうぞよろしくお願いします。

山田憲永 (体育科教諭)

この4月から新しく顧問に加わった山田憲永です。ラグビーとは小学生の頃に出会ってから20年以上関わっており、趣味は？と聞かれればラグビーと答えるぐらいです。

この様な私が顧問となりまず初めに考えたことは、彼らが求めているラグビースタイル(展開ラグビー)を完成させる手助けをしていくということです。そうすれば、自ずと結果はついてくると信じています。

そして、ラグビーの楽しさを味わい、ラグビーと一生関わっていきたい、と子どもたちが思えるようになってほしいと考えています。

春季大会では残念ながら、成城学園に敗れてしまいました。前半、押し気味に試合を進めることができたが、トライを奪うことができなかったことが敗因の一つ。そこで得点を挙げていれば、もっと競った展開になっていたことでしょう。

今後とも子どもたちの応援をよろしく願いいたします。

「切磋琢磨の精神」

及川順二 (平成 11 年卒)

『切磋琢磨』・・・友人などが、お互いに励ましあって、共に向上すること(旺文社、国語辞典より)

高校を卒業して4年経った今もなお、この言葉が耳に残っています。僕らは何度この言葉を投げかけられたらう。

一生懸命何かに打ち込んだり、ライバル心をむき出しにして競い合ったりすることが、どこか格好悪く見られたり、時代に合わないと言われる今日この頃。僕たちが高校生だった頃も、そんな時代だったと言えるだろう。にもかかわらず、高梨先生は敢えて『切磋琢磨』という言葉を使い続けていた。先生は僕たちに何を伝えたかったのか。

僕たちの代は部員数が少なく、ポジションを取り合ったり、美人マネージャーを取り合うこと

もなかった。僕たちの練習は何となく緊張感に欠け、次第に馴れ合いになっていった。そんな状態を見兼ねてか、先生は僕たちに『切磋琢磨』と檄を飛ばしてくれた。

その時、ふと気づいたことが一つ。別に同じポジション同士じゃなくても、バックス同士じゃなくても、向上しあえるんだということ。ラグビーという同じ土俵の上に立っている以上、力や技術、心を磨きあえるんだということ。

きっと先生は僕たちにこのことを伝えたかったんだと思います。それに気付いてかいなかは定かではないが、それから僕たちは強くなった。全国には出ていないものの、自分たちなりに満足いく結果を残せた。それもこれもきっと先生のおかげ。多分。(正直なところ、先生がそこまで深く考えていたかどうか不明である。)

僕は今、高校教師を目指している。高梨先生は僕の目標とする教師の一人です。いつかどこかで同じ職場で働きたいものです。

先生、今までお世話になりました。違う学校に行っても、ちょっといい加減だけど、実は熱い教師みたいなスタイルでいてください。

「あの一言で・・・」

小川晃央 (平成 12 年卒)

高梨先生、長きに渡り小石川ラグビー部を支えて頂き誠にありがとうございました。

その間、私たちの知らないところで度重なるご苦労もあったことでしょう。

心より感謝申し上げます。

そもそも私がラグビー部へ入部したきっかけは、先生の一言でした。「オマエのその小さい背格好ながらデカイ体型とそれに似つかぬ足の速さを一番活かせるのはラグビーだけだ！うちへ来い！」それまで出会った、どのタイプにも属さない先生でした。初対面でいきなりこんなメッセージを浴びせられて、さすがに唾然としたことを今でも鮮明に記憶しています。しかし、かえって「そこまで言い切られたのでは、やるしかないな

い！」という気持ちが湧き、入部しました。今思えば先生の得意とする「人を逆撫でして、逆にやる気を出させる」手法にまんまとかかってしまったわけですが…。

その上、私たちの代はチームメイトにも恵まれ都ベスト8という素晴らしい経験もさせていただきました。それも先生の「練習メニューもサインも自分達で決めろ！考えて練習するんだ！」という我々の自主性を尊重した教育方針のお蔭だと感謝しております。

転出されても、この「教育方針」と「切磋琢磨」の精神を旨として、これからもますますお元気で活躍ください。

「真っ直ぐ縦に、前に出るのだ」

島崎将成 (平成 13 年卒)

高梨先生との出会いは高校に入って初めての体育の授業でした。いつもの、調子のいい口調で授業の説明に交えてラグビー部の宣伝・勧誘をしていました。今、このことを思い出して、いったいどれだけの生徒を勧誘していたのかと考えてしまいました。勧誘の方法は良かったとは言えないかもしれませんが、新入生だった当時の私にも今の私にも先生のラグビー部への想いが強いのだと映っていました。先生は小石川ラグビー部の生徒の自主性を尊重していました。キャプテンをやらせてもらっていた時、そのことを強く感じました。あまり細かいことは口出しせず、大事なことを繰り返し、繰り返し言っていました。真っ直ぐ縦に、前に出るのだ、と。今、私は大学でプレーをしています。その真っ直ぐ縦に前に出ることの難しさ、そして重要性を感じる事が多くあります。きっとラグビーを続ける限りこの言葉は僕の中でずっと生き続けるのだと思います。

「直情的でストレートな先生」

野渡寛介 (平成 14 年卒)

冬の太陽が照りつける小石川のグラウンドに立つ姿は、名の通ったスポーツメーカー製の

ジャージ。アルファベットのロゴが入ったキャップ。日焼けした顔の不精ヒゲに色物のサングラス。ちょっと舌足らずで声も大きい。こんな格好がよく似合う。私と高梨先生が初めて会ったのはグラウンドではなく、新一年生の教室であった。学級担任でもあり、部活顧問でもあったのだ。そんな私がラグビー部に入るのはごく自然な成り行きと言えよう。江戸っ子っぽく、直情的でストレートな先生の語る言葉は「熱くて素朴」なもので溢れていた。三年間グラウンドや試合場、時には教室でのHRや進路指導の度に先生の話聞いてきたが、それは技術的なことや戦略的なことではなく「人間としての心構えと気持ちのありよう」ということに還元される。『One for all All for one』と『後ろへ退くな、前へ前へ』の精神はグラウンド上にいる時だけに語られるような器ではないのである。卒業の時にアルバムやラグビー部から贈られる色紙など、たどたどしい達筆で書かれる先生の決め台詞はいつも『前へ前へ』であった。そんな先生が見守る私達の代は三年生の時10人全員が秋まで残った。10月末まで一緒にラグビーができたのもひとえに先生の力によるものである。そしてこの素晴らしい10人の仲間との絆は先生との縁によってもたらされた。ラグビーの技術や戦略を的確に伝えることの出来る指導者は数多くいるが、先生が私に教え残してくれたものは『One for all All for one』と『後ろへ退くな、前へ前へ』の精神と、10人の仲間であった。今年度限りで高梨先生は小石川から異動されるが、どこにいても高梨節を振るって生徒達を指導し、人の絆を育てて欲しいし、またきっと先生はそうあり続けると私は信じている。

「人生の大切な1ページ」

南公一郎 (平成 15 年卒)

「こんな弱いチームは長い間ラグビー部の顧問をやってきたが見たことがない。」と高梨先生に言われた事がありました。自分たちの代が3年の合宿先でのことでした。その時は1番チームの力

となるべき我が代が受験の波にのまれ部活に参加したりしなかったりでチームが低迷していましたが、この一言で息を吹き返した気がします。それから秋の試合までの2ヶ月間は本当に頑張る事が出来ました。試合結果だけを見るならば受験にとって重要なこの2ヶ月間は無駄になるかもしれません。しかし、この過程は自分にとって人生の大切な1ページとなったことは確かです。

こんなすばらしい経験をさせていただいた高梨先生。3年間1度も反感を抱いた事がないとはいえませんが、これほど親身になって生徒に接してくれる先生はいませんでした。

「高梨先生、ありがとうございました。」

齋藤守弘 (後援会理事長)

9年間に渡り小石川高校ラグビー部をご指導いただいた高梨先生には深く感謝の意を表したいと思います。少子化、運動部離れが進む中で多くの高校のラグビー部で休部あるいは、10人制・合同チームでの存続という状況が発生していることに対し、小石川高校ラグビー部が15人制ラグビーの大会に参加し続けることができたということに、そして、高梨先生転任にあたってこの会報に掲載された教え子たちのコメントから高梨先生の素晴らしい功績を知ることができると思っています。小生は先生の指導現場に接する機会は少なかったのですが、数回見ることでできた練習や試合において生徒たちの可能性を伸ばすための高梨先生の素晴らしい情熱を感じることができました。後援会としては7月に予定されている総会に高梨先生をお招きして感謝の気持ちをお伝えたいと思っています。高梨先生のますますのご発展を祈念しております。

藤田幸康先生退官のお知らせ

昭和47年4月から昭和51年3月まで4年間、ラグビー部の監督を務められた藤田幸康先生(体育科)が平成15年3月、都立富士高校を定年退

職されました。藤田先生には小石川高校時代の思い出を振り返っていただくと共に、藤田先生のもとでラグビー生活を送ったOBに藤田先生の思い出をつづっていただきました。尚、藤田先生は平成15年4月より囑託として、小石川高校の保健室勤務となりラグビー部のサポートもいただくことになっています。

藤田先生の退官記念パーティのご報告 平耕一 (昭和52年卒)

去る4月19日(土)、藤田幸康先生の退官記念パーティを、茗荷谷の茗溪会館にて行いました。先生のご家族と、先生に直接ラグビーの指導を受けた小石川、光丘、富士の3校OB・OG約150名が集まり感謝の気持ちを伝えました。小石川は、先生が赴任された時の3年生(昭和48年卒)から、異動された年の1年生(昭和54年卒)までに連絡し、計46名が集まりました。



各校代表者からの祝辞、石森君(昭和52年卒)のリュート演奏、スライド・ショー(気がつくと、先生が自ら写真の解説をしていた)、先生と奥様への記念品や花束贈呈、合唱、と盛りだくさんの内容を準備しましたが、会のクライマックスは、幹事側の予定には無かった、先生から奥様への花束贈呈でした。「37年間、辛苦(シンク)をともにしてくれた感謝の気持ちを、深紅(シンク)の薔薇37本にこめて贈ります。」との言葉に、奥様

の目に涙が見られました。

なお、パーティの幹事は、斎藤、赤堀を中心に小石川高校昭和 52 年卒が全体をリードしました。小石川取り纏め担当の私は、昭和 48 年卒の石黒さん(当日は海外出張で不参加)から、記念誌作成で頑張ってくれた昭和 54 年卒の渡辺将さん、花島さんまで、多くの方に、いろいろなお願いを致しましたが、皆さん、とても快く積極的に引き受けてくださいました。30 年たっても変わらぬ素晴らしい仲間がいることを再認識し感激しました。

「定年退職 そして再び・・・」

藤田幸康(元顧問)

昭和 41 年 9 月 1 日、都立池袋商業高校定時制の教諭として教員のスタートを切る。昭和 47 年 4 月に小石川高校に転任、新設校が開設になるときは転勤をさせてもらおうというわがままな約束を徹して、昭和 51 年 4 月には校舎もグラウンドもなかった新設校・光丘高校に転任する。科に過員が生じて、売れごろの年齢の私が・・・ということで、昭和 61 年 4 月に富士高校へ転任、そして、平成 15 年 3 月 31 日に定年退職を迎えた。このように 36 年 7 ヶ月にわたり 4 つの都立高校に在籍したことになります。その間、多くの関係者や教職員・生徒諸君に支えられ励まされて今日を迎えることができました。心から感謝しています。

そして、この度、ご縁があって囑託として再び小石川高校にお世話になることになりました。

私が最初に小石川高校にお世話になったのは、31 年前のずいぶん遠い昔のことですが、今でも多くのことを鮮明に覚えています。4 年間という短い期間でしたが、教員の私にとって、またラグビーを指導する者として、常に小石川高校は特別な存在でした。

池袋商業高校定時制に勤めながら通っていた大学院の修士課程が修了直前だった私は、新設高校への異動を強く希望しており、新設校でラグビー部を立ち上げようと意気込んでいました。名

門校へ転任するつもりはまったくなかったのですが、“元気がよい??ラグビー部の生徒たちに眉をひそめている教員が少なからずいる。学校としても何とかしたいと思っている。力を貸してほしい・・・”という、何度かにわたる西中良夫先生の淡々としたなかにも熱意のある要請や勧めがあり、小石川高校にお世話になる決意をしました。

転任していった小石川高校では、29 歳の私が 2 番目に若いという教員集団の中に入り、教員としていろんな面から大いに鍛えられた 4 年間でした。今思うと、それは、教員である私にとっても小石川高校三校是の「立志・開拓・創作」さらには二精神「自由・真理」の実践であったように思われます。その実践や勉強の場はもちろん校内ですが、補講は「鳥清」という道場でした。

私の在職中の小石川高校では高校紛争がまだ続いていて、入管法反対とか教育白書などで立看板やクラス討論、大衆団交が行われ、卒業式粉碎とか定期考査ボイコット、バリケード封鎖(私と木村先生が宿直の時にやられた)などがあり、ヘルメットをかぶって校内を練り歩くデモの集団もいました。暴力はダメ、授業妨害はご法度、外部の人を(思想的な観点から)入れない、この 3 点くらいしか校則?のない自由な校内で、さまざまな個性を發揮して躍動する生徒たちの姿といかなる時にも強権を発動せずに我慢強く彼らに対峙していた教師集団の姿勢は、私に教育の何たるかを教えてくれました。

小石川高校は私の教員としての原点だと思っています。

そして、この小石川高校で私のラグビー指導者としての第一歩が始まりました。驚いたのは、乱雑な部室に分け入って内部から重い戸を閉めると、現れたブロック壁の数ヶ所に穴が空いていて見事に灰皿になっていたことでした。そして、現役も OB も下校時刻なんのそのといった無頼な態度でした。また、それまで専門の指導者がいなかったので OB にも歓迎されるだろうと期待して

いたのですが、見事に期待が外れて、若手 OB との折り合いが悪くて困惑したことも懐かしい思い出です。

まず、最初に行に移したことは、教員や生徒たちから煙たがられるラグビー部からの脱却でした。具体的には、練習時間や場所を守ること、部室の清掃・整理整頓、ジャージの洗濯等々、とにかく、他に迷惑を掛けないようにすることで、愛されるとまではいなくても、少なくともラグビー部かと眉をひそめられないようにすることでした。

次に、練習ではラグビーの新しい考え方や戦術・戦法の工夫だけでなく、何のために、何を、どうするのか、個と集団、意識・意欲・努力・継続などをテーマに指導を始めました。やがて、部員たちが自分たちでゴールポストを建てたり、廃材でスクラムマシーンを作ったりもするようになり、昼休みには目黒高校のジャージの色に塗られたスクラムマシーンを飽くことなく押しているプレイヤーたちの姿がありました。人材に恵まれないチームに For the team の精神が芽生えていったのです。

就任 2 年目には、名門(強豪)成蹊高校との善戦が認められ、推薦によって水戸での関東大会に出場できました。OB たちからは“ がらくたのチーム ” にしか見えなかったそうですが、さすが小石川生! 塚越キャプテンのときである。その後、意識・意欲・集中力などに長けた小石川高校ラグビー部は、プライドとプレー(物事)へのこだわりによって、順調にチーム力を伸ばし強豪チームの一翼を担うようになっていきました。生徒の自主性・自発性、小石川生としてのプライドを信じて転任してから 27 年、今でもあの頃の小石川高校ラグビー部での 4 年間のことは鮮明に記憶に残っています。

私のラグビー指導の源流は小石川高校にあると確信しています。

今般、私の「教員としての原点」さらには「ラグビー指導の源流」である小石川高校に再び戻る

ことができ、天に感謝するとともに 36 年 7 ヶ月の教員生活を振り返り感慨無量の境地です。

“ 常に生徒と共に ” という初心を忘れずに歩んできた生涯一教員としての私の道は、生徒に教えられ育てられた道程、生徒たちの可能性に魅せられた道でした。そして、再び・・・。

「藤田先生の思い出」

横瀬隆徳(昭和 52 年卒)

小石川高校ラグビー部 OB の皆様、御無沙汰しています。当方、ニューヨーク在住 9 年目となり、当地で自営業を営んでいます。未だ明日をも知れぬ零細状態で、その分皆様に不義理をしてしまっただけで申し訳なく思っています。今回は、同期の斎藤から原稿の依頼が来ました。彼は、勤務先の IBM で要職に有りながら、東京大学ラグビー部の監督、当 OB 会の理事、OB 会報の編集長等々に駆け回り、頭の下がる思いです(お世辞はこの位に...)。彼からの依頼では、いくら当方が多忙と言っても、断れる筈がありません。

今日は限られた紙面の中で、藤田先生の当校から光丘高校への転勤に纏わるお話をしたいと思います。

私が高校 2 年生の時(1975 年)、当時から先生は部員の自主性を重んじられ、主将・副将を含む数名の委員会を創り、練習計画の作成等に当たるように指導されていました。私も副将としてその委員会に参加していました。

その年の秋、全国大会予選三回戦で、当時再び力を伸ばし、翌年全国大会出場を果たした保善高校との対戦が決まった或る練習後、いつものように委員会が開かれました。その中で先生曰く、

「練馬に新設校が出来ると。新しい学校づくりから始められて、極めて魅力的だが、転勤については正直のところ迷っている。だから俺はお前達に賭ける。今度の試合に勝ったら、転勤は取りやめる。お前達も今度の試合に賭けてみる。但し、部員にはこの事は言うな。」...。先生は、何かに賭ける事、目標に向かって全力を傾注することを、こう

いう形で教えようとした訳です。しかし当事者にとってはさあ大変、根が正直で人の言葉を信じる私は、大変な負荷を背負うことになりました。特に最後の「部員にはこの事は言うな」は、私にとって大きなプレッシャーとなりました。部員全員先生を尊敬し、慕っていましたから、何とか引き止めねばならないと思いました。しかし対戦相手はそう簡単に勝たせてくれる相手ではありません。人間は時に悪い方ばかりを考えがちなもの、試合が近付くにつれ、チームメートに事実を告げることも出来ず、食えなくなり、眠れなくなりました。そして遂に試合の当日が来ました。先生から授かった作戦は悉く成功し、全員が各々の責任を果たし、後半半ばで 12 点差を付ける思惑通りの試合でしたが、終了間際に続けてトライを奪われ、結局ゴールの差で力尽きました。(24 - 30) 当時 SO であった私が、もう少しキックを多用し、FW を楽にしておけば、最後に走り負けることは無かったかもしれません。ただ当時の作戦は、ボールを繋いで展開を重視する作戦でした。(20 年以上経過した今でも、忘れ得ぬ試合となっています)

本当にあの試合が先生の転任を左右したのかは未だ定かではありませんが、翌年四月、藤田先生は転任され、我校は最も敬愛すべき人の一人を失ってしまいました。しかし、「人間万事塞翁が馬」と言いますか、四半世紀が経過した今にして思うと、結果的にはこれで良かったのかも知れないと私は思っています。先生の転任を機に、光丘高校の皆さんや、その後富士高校の皆さんとも、ラグビー仲間の輪を広げることも出来ました。そればかりか先生の転任後、我々は否応無く自立を強いられ、培われました。この自立心を含めて在任中に先生に教えて頂いた多くのスピリットは、今でも我々の中に深く根付いています(だから私は会社を辞めちゃったんでしょかね...?)。人間形成に一番重要な時期に、大きな影響を与えて下さった藤田先生とラグビーと言うスポーツに、感謝の気持ちを正確に表す言葉が見つかりません。

理事会からのお知らせ

大泉高校との定期戦のお知らせ

昨年、現役の試合は惜しくも敗れたものの、OB 試合は圧勝しました。今年も試合、応援に奮ってご参加ください。

日 程：平成 15 年 6 月 7 日(土)

10:00 ~ 小石川高校 vs 大泉高校

11:00 ~ 小石川高校 OB vs

大泉高校 OB

場 所：都立大泉高校グラウンド

(西武池袋線大泉学園駅より徒歩約 7 分)

雨天の場合は中止となります。

終了後、懇親会を行います。会費等は不要です。



総会のお知らせ

昨年の総会には 100 名を超える卒業生が集まり、懇親会も大変盛り上がりしました。今年も多くの皆様の参加をお待ちしています。

日 程：平成 15 年 7 月 12 日(土)

13:00 ~

場 所：都立小石川高校グラウンド

(現役との合同練習、現役 vs OB の試合を予定しています)

終了後、懇親会を行います。会費等は未定です。(昨年は 2000 円)

雨天の場合、15:00 ~ 総会と懇親会を行います。

平成 14 年度寄付者ご芳名

昨年度は会費納入のほかに、73 名の方々からご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

昭和 35 年	丸山 茂雄	25000 円
昭和 48 年	山本 由紀子	25000 円
昭和 48 年	住田 邦生	25000 円
昭和 58 年	桶谷 和信	15000 円
昭和 41 年	俵 一雄	10000 円
昭和 25 年	石川 周三	5000 円
昭和 25 年	大畑 直行	5000 円
昭和 25 年	伊達 正	5000 円
昭和 25 年	萩原 正	5000 円
昭和 26 年	森本 龍幸	5000 円
昭和 27 年	相沢 庄平	5000 円
昭和 27 年	杉田 安啓	5000 円
昭和 27 年	中内 浩二	5000 円
昭和 28 年	小山 知泰	5000 円
昭和 28 年	鈴木 六郎	5000 円
昭和 28 年	武市 威久	5000 円
昭和 28 年	藤井 總明	5000 円
昭和 30 年	小貫 伸一	5000 円
昭和 30 年	帰山 孝	5000 円
昭和 31 年	岡 英夫	5000 円
昭和 31 年	岸野 匡伸	5000 円
昭和 31 年	坪井 孝頼	5000 円
昭和 31 年	長谷川 稔	5000 円
昭和 31 年	堀越 雅郎	5000 円
昭和 32 年	池田 史郎	5000 円
昭和 32 年	石崎 駿一	5000 円
昭和 32 年	小倉 宏	5000 円
昭和 32 年	小泉 恵一	5000 円
昭和 32 年	竹井 誠	5000 円
昭和 32 年	藤井 茂博	5000 円
昭和 32 年	坂下 勝平	5000 円
昭和 34 年	江崎 登志雄	5000 円
昭和 35 年	鈴木 隆	5000 円
昭和 35 年	野田 節男	5000 円
昭和 36 年	笹本 東作	5000 円
昭和 36 年	篠井 保彦	5000 円
昭和 37 年	斎藤 正宏	5000 円

昭和 38 年	大坪 和雄	5000 円
昭和 40 年	大崎 清	5000 円
昭和 42 年	川口 明	5000 円
昭和 42 年	増田 光司	5000 円
昭和 44 年	清田 滋	5000 円
昭和 45 年	伊藤 睦	5000 円
昭和 46 年	渡辺 明良	5000 円
昭和 47 年	秋山 弘子	5000 円
昭和 48 年	村田 伸一	5000 円
昭和 49 年	高田 武	5000 円
昭和 49 年	飛坂 有三	5000 円
昭和 50 年	斎藤 留美	5000 円
昭和 50 年	大西 正利	5000 円
昭和 50 年	小林 浩	5000 円
昭和 50 年	小熊 正明	5000 円
昭和 51 年	佐藤 忠則	5000 円
昭和 52 年	佐藤 和夫	5000 円
昭和 52 年	平 耕一	5000 円
昭和 57 年	長谷川 孝弘	5000 円
昭和 58 年	藤枝 昭裕	5000 円
昭和 58 年	若林 俊康	5000 円
昭和 59 年	池島 直人	5000 円
昭和 59 年	磯崎 康	5000 円
昭和 59 年	木村 智幸	5000 円
昭和 59 年	渡辺 豊	5000 円
昭和 59 年	松井 幹和	5000 円
昭和 60 年	奥津 勝	5000 円
昭和 61 年	道家 竜馬	5000 円
平成元年	金子 智雄	5000 円
平成元年	塩野入 豊	5000 円
平成 3 年	大前 裕之	5000 円
平成 5 年	菅原 賢	5000 円
平成 5 年	平野 直人	5000 円
平成 5 年	渡辺 英之	5000 円
平成 7 年	広瀬 祐理	5000 円
平成 13 年	山本 太郎	5000 円

平成 14 年度会費納入率 (卒業年別)

卒業年別年会費納入率							
昭和 25 年	83.3%	昭和 39 年	0.0%	昭和 53 年	13.3%	平成 4 年	0.0%
昭和 26 年	33.3%	昭和 40 年	16.7%	昭和 54 年	0.0%	平成 5 年	20.0%
昭和 27 年	30.0%	昭和 41 年	11.1%	昭和 55 年	4.2%	平成 6 年	25.0%
昭和 28 年	75.0%	昭和 42 年	40.0%	昭和 56 年	30.0%	平成 7 年	37.5%
昭和 29 年	0.0%	昭和 43 年	11.1%	昭和 57 年	42.9%	平成 8 年	0.0%
昭和 30 年	16.7%	昭和 44 年	10.0%	昭和 58 年	44.4%	平成 9 年	0.0%
昭和 31 年	77.8%	昭和 45 年	20.0%	昭和 59 年	57.1%	平成 10 年	20.0%
昭和 32 年	61.5%	昭和 46 年	10.0%	昭和 60 年	0.0%	平成 11 年	46.2%
昭和 33 年	11.1%	昭和 47 年	6.3%	昭和 61 年	26.7%	平成 12 年	91.7%
昭和 34 年	40.0%	昭和 48 年	44.4%	昭和 62 年	31.3%	平成 13 年	50.0%
昭和 35 年	30.8%	昭和 49 年	18.2%	昭和 63 年	6.3%	平成 14 年	53.8%
昭和 36 年	33.3%	昭和 50 年	33.3%	平成元年	31.3%		
昭和 37 年	22.2%	昭和 51 年	11.1%	平成 2 年	0.0%		
昭和 38 年	27.3%	昭和 52 年	27.8%	平成 3 年	26.1%		

平成 15 年度会費納入のお願い

今後も後援会活動を充実させていくため、年会費の納入をお願いします。

また、同時に寄付も募集しています。年会費と同時に振込みください。ご協力よろしく申し上げます。平成 14 年度会費未納入者の方で今年度会費額を超えて納入していただいた方は、超えた分を平成 14 年度会費分とさせていただきます。

(1) 年会費は後援会規約第 6 条により社会人は 5000 円、学生は 3000 円となります。

(2) 年会費・寄付の納入方法は以下のとおりです。

郵便局

同封の用紙 (口座番号などはすでに記入済) に金額、送金人住所氏名を記入し、郵便局にてお振り込み下さい。(手数料は不要です)

銀行

みずほ銀行 (旧富士銀行) 駒込支店 (店番号 559)

普通預金 口座番号 0451272 小石川高等学校ラグビー部後援会

(3) 会費納入は 7 月末日までをお願いします。また寄付は随時受け付けています。

ホームページ紹介

円滑な情報伝達と会員の親睦を図るために小石川高校ラグビー部後援会のホームページを製作いたしました。ホームページのアドレスは <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/8115/> です。

ホームページ上の掲示板には OB、OG をはじめ、現役部員も書き込んでいます。一度ご覧になり、近況や後援会に対するご意見、現役生への励ましなどを是非お書き下さい。また現役の練習スケジュールも載せておりますので、ぜひ練習日程を確認していただき、グラウンドに足をお運び下さい。

後援会メーリングリスト参加のお願い

後援会から随時、現役試合の日程や結果等をお知らせする場として、また、卒業生の皆様が情報を発信する場として、「小石川高校ラグビー部後援会メーリングリスト」の運営を開始します。

下記の URL にアクセスの上、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

<http://www.egroups.co.jp/group/>

koishikawa rugby3

住所不明者

(敬称略)

昭和 26 年卒	桜井 裕
昭和 29 年卒	神田 孝行
昭和 30 年卒	近藤 弘
昭和 34 年卒	山岸 萬男
昭和 35 年卒	戸田 元仁
昭和 35 年卒	前田 忠昭
昭和 36 年卒	鈴木 俊郎
昭和 36 年卒	竹内 誠
昭和 37 年卒	吉野 毅
昭和 37 年卒	杉本 優
昭和 37 年卒	船越 丈生
昭和 38 年卒	内田 恒次
昭和 38 年卒	鈴木 健
昭和 38 年卒	野口 順三
昭和 38 年卒	清水 正一
昭和 39 年卒	金沢 洋一
昭和 39 年卒	西尾 征二
昭和 40 年卒	宮田 光彦
昭和 41 年卒	長谷川 路夫
昭和 42 年卒	三沢 秀光
昭和 42 年卒	中村 喜昭
昭和 43 年卒	植草 正信
昭和 44 年卒	蛭田 真一
昭和 44 年卒	柳原 彰一郎
昭和 45 年卒	成澤 淳
昭和 46 年卒	堤谷 正俊
昭和 47 年卒	小林 純夫
昭和 49 年卒	幸島 敏
昭和 50 年卒	荒井 優二
昭和 50 年卒	松丸 晴美
昭和 50 年卒	鈴木 博

昭和 53 年卒	清水 潤子
昭和 53 年卒	斎藤 咲平
昭和 53 年卒	永田 利樹
昭和 54 年卒	越田 明宏
昭和 54 年卒	加藤 明洋
昭和 54 年卒	佐藤 敏明
昭和 54 年卒	渡辺 将
昭和 54 年卒	竹内 宏
昭和 55 年卒	岩淵 康文
昭和 55 年卒	徳川 直久
昭和 55 年卒	手塚 正時
昭和 55 年卒	大多和(森) 節子
昭和 58 年卒	桶谷 和信
昭和 58 年卒	斉藤 隆憲
昭和 58 年卒	矢作 真樹
昭和 59 年卒	石井 義則
昭和 59 年卒	遠藤 誠
昭和 59 年卒	長澤 裕
昭和 60 年卒	安達 祐二
昭和 60 年卒	江尻 剛
昭和 60 年卒	花沢 真人
昭和 60 年卒	平石 憲一
昭和 60 年卒	三村 和成
昭和 60 年卒	水野 秋人
昭和 60 年卒	佐藤 一生
昭和 60 年卒	須田 大介
昭和 61 年卒	坪井 希恵
昭和 61 年卒	山本 浩司
昭和 61 年卒	川澄 路昌
昭和 61 年卒	黒柳 裕久
昭和 62 年卒	矢澤 孝哲
昭和 62 年卒	岩佐 和典
昭和 62 年卒	高岡 由紀子
昭和 62 年卒	山田 二郎
昭和 63 年卒	菅野 悦也
昭和 63 年卒	鈴木 秀治
昭和 63 年卒	高橋 利典
昭和 63 年卒	赤尾 玲子
昭和 63 年卒	小笠原 裕司
平成元年卒	田代 安史
平成元年卒	宮本 健
平成元年卒	吉岡 善樹
平成元年卒	鴻谷 絵里
平成元年卒	小室 文也
平成 2 年卒	斉藤 慎也
平成 2 年卒	高橋 剛
平成 3 年卒	岩崎 幸司

平成 4 年卒	山崎 孝子
平成 5 年卒	平野 直人
平成 5 年卒	小山 慎一郎
平成 5 年卒	羽立 善晴
平成 6 年卒	佐藤 辰彦
平成 6 年卒	佐藤 大喜
平成 7 年卒	丸山 俊文
平成 7 年卒	榎 達也
平成 7 年卒	加藤 拓磨
平成 8 年卒	伊藤 毅
平成 8 年卒	黒沢 大輔
平成 8 年卒	富田 理紗
平成 9 年卒	梅谷 哲也
平成 9 年卒	井口 敦
平成 9 年卒	山崎 陽子

< 連絡先 >

武藤拓馬 (平成 12 年卒)

住所: 〒175 - 0082

東京都板橋区高島平 7 - 20 - 10 - 404

TEL : 090 - 6140 - 8356

E-mail : brief_schicken@hotmail.com

次回の会報は平成 15 年 10 月発行の予定です。

以上の方の住所をご存知の方、引越し等で住所を変更される方は編集後記の連絡先までお知らせください。

編集後記

前回に引き続き、今回の会報発行にあたっても杉田安啓さん (昭和 27 年卒) のご厚意により、印刷代等をご負担頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。またお忙しい中、情報提供、写真提供、原稿執筆等でご協力いただいた皆様にもお礼申し上げます。

後援会のさまざまな活動を企画、運営している理事会の会合は約 3 ヶ月に 1 度の割合で開かれています。会報発行や総会準備等に加え、今年度より卒業生メーリングリストの運営を開始します。ホームページの掲示板と合わせ、奮ってご参加ください。

なおこの会報についてのご意見、お問い合わせ、また「このような活動をしたらいいんじゃないか」というご意見やアイデア等がありましたら、以下の連絡先までお願いいたします。